

三和分校

PTAだより

福知山高校

三和分校PTA

平成20年

7月18日

御挨拶

PTA会長 藤田 一美子

暑中お見舞い申しあげます。PTA会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

このたび、平成二十年度のPTA会長を仰せつかりました。初めての大会でどれだけ事が出来るかわかりませんが皆様のご理解、ご協力をさらに頂きながら精一杯努力したいと思っております。

二十一世紀になり、早八年。私たちの暮らしは便利で物の豊かな現代ですが、世の中は目まぐるしく流れ、恐ろしいほどのスピードで日々変化しつつあります。思いもよらない出来事が次々に起こり、一つの出来事に



に関心をもち続けることが出来なくなっています。大きな自然災害も後を絶ちません。豊かな時代のはずなのに、だんだんと生きにくい世の中にな

っていくように感じて仕方ありません。

そんな「世の中」の荒波に送り出す前にとても大切に貴重な時間が三和分校とともにあります。保護者と生徒と協力し実行するPTA活動・行事があります。

焼付けくような夏の暑い空の下汗をぬぐいつつ草を刈る「環境整備」。生徒の皆さんが日頃の学習成果を発表し、PTAはバザーを出店する「文化祭」。その他にも様々な活動・行事があります。

ぜひ、これらの活動行事に積極的に参加いただき子供達と共通の体験をし、共通の話題として語り合うきっかけとなれば、と思えます。そして、語り合う中で子供達より「世の中」を長く生きていく先輩として「世の中」の荒波を乗り越える力を、なにかしら伝えられればと願っています。

今年一年間、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



一学期をふりかえって

校長 加藤 寛

猛暑の候、PTA会員の皆様にはお変わりなくご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

日頃は福知

山高等学校三和分校の充実発展のため、御協力・御支援いただき誠にありがとうございます。PTA役員・保護者の皆様には、例年通り、夏休み中の学年懇談会・環境整備作業、文化祭などと年間を通してお世話になります。よろしくお願ひします。



四月には、新入生二十三名（家政科十名・農学科十三名）を迎えスタートいたしました。また、教員も、新たに四名の先生を迎え、研修から帰られた先生を含め、十一名中五名が変わる新体制で出発しました。新しい息吹を吹き込んでいただけると期待しております。さて、例年、教育目標に、社会人になるための自覚を促す生徒指導をあげています。卒業後、社会で働ける人格の形成を求め、一つ一つ積み上げていく努力をして欲しいと願っています。

今、一学期を振り返ってみますとき、当初、一部の生徒に授業妨

害・暴言等の問題行動があり、落ち着いた雰囲気での学習をスタートできた学年ばかりではなかったと思えますが、繰り返し指導する中で、学習環境は整いつつあると思っております。指導の度に感じますことは、集団の中で生活をしていくうえで、自分本位の考え方に終始しているのではなく、他人の立場も考えて行動することが必要であること。そのためには、生活の場からはみ出した存在にならないよう。“やりたいけどやれない” “やりたくないけどやる” という考えをしつかり自覚し行動して欲しいと考えております。

御家庭の御協力をお願いします。クラブ活動においては、今年も陸上競技部五名・女子テニス部二ペアが全国大会出場を勝ちとりました。また、全国大会に出場はできませんでしたが、卓球部も全国大会の予選に参加し、よく健闘しました。いずれも、積極的に行動し、地道に努力した結果であると確信します。

以上、一学期を振り返りかえつての所感と致します。今年一年よろしくお願ひ申し上げます。

PTA行事には是非ご参加下さい

・ 学年懇談会 七月二十二日 午後七時半

・ 環境整備作業 八月二十四日 午前九時

午前九時

PTA会員のひとこと

・最近思う事

三年生一会員

ここ数年、年少者の犯罪が目につきます。そのたびに心が痛みます。同年代の親子さんの事を思うと、とてもつらいです。どこかで赤信号を出していたのでしようね。どこで気付いてあげられるのか。今、忙しさにおいまくられて、親子の会話などが少なくなっているのではないのでしょうか？

親つてむずかしく思います。

子供達から教えてもらおう事も多々あります。(私だけかもしれませんが……) 明るいニュースが多くなることを願っています。

一会員

・毎日暑い日が続きますが皆様お元気でしょうか？ 子どもも三年生になり、あつというまに日が過ぎていくように感じます。学校生活にも慣れ楽しく学校に通って来ていて、嬉しいことと思っております。四年間ゆっくり学べるのが、分校の良いところと思う反面、中学校の同級生が進路について悩んでいるのを見ると、三和分校も三年で卒業できても良いかなと思ったりします。とにかく今は、一年一年を充実した日で過ごしてほしいなと思います。



祝 全国大会出場

陸上競技部 テニス部

・陸上競技部

八月十五日、十八日に国立競技場で行われる第四十三回全国高等学校定時制通信制陸上競技大会に五名の選手が七種目に出場予定です。出場種目は次の通りです。

田中 賢慈君 (四年)

百丸・二百丸

四方 善晶君 (四年) 四百丸

藤田 信大君 (四年)

二千丸 障害

河原林 治君 (三年)

千五百丸・五千丸

坂根 健太君 (三年) 八百丸

・テニス部

八月八日、十日に有明テニスの森公園テニスコートで行われる第四十一回全国高等学校定時制通信制ソフトテニス大会に京都府チームとして2ペア出場予定です。

木村 あかねさん (四年)

千葉 真奈実さん (四年) ペア

松本 優香さん (三年)

高橋 綾香さん (三年) ペア

全国大会参加にむけて

私達がペアを組んでから3年が経ちました。年が経つたびに、少しは今まで以上にうまくなつたと思います。今まで四年間テニスをしています、すごく色々な事を学ぶ

ことができました。今年で全国大会に行くのも最後です。今まで学んだことを生かし、精一杯頑張ってきたと思います。

(四年 千葉・木村)

僕は、昨年に続き全国大会に出場という事で非常に嬉しく思います。今年も予選で走った八百丸で三位に入りましたがタイムで落選でした。夢は消えかけました。しかし翌日、先生から「八百はだめだ末、出場することにしました。この一枠に僕を推薦してくれた京都の顧問の先生には、感謝しています。二千丸障害は水郷などの障害を飛びます。全国大会では、最下位になつても完走をすることを目標に頑張りたいと思います。そして最後の全国大会を思いっきり楽しんで、笑顔で京都(福知山)に帰ってきたいと思います。

(四年 藤田 信大)

今年も全国大会に出場します。今年も2勝以上したいです。勝つためには、声を掛け合い、どんな球でも打ち返し、最後まで気を抜かないような試合をしたいと思っています。

この場に立てるのは周りの人たちからの温かい言葉や支えがあるからだと思っています。その言葉を忘れずに頑張ります。

(三年 松本 優香)

僕は全国大会出場が三度目です。二年前の頃のような好成绩を出したいと思います。目標は一分二〇秒の壁を突破すること、決勝で五位以内に入ることです。つまり、昨年度の雪辱を果たすことです。昨年度は順位は良かったのですが、タイムは一八分に近いタイムだったので、今年も、このようなタイムにならないように暑い中で練習して、暑さに慣れるように頑張りていきたいと思えます。

夏休みに強化練習会が二回あるので、最後まで諦めないような力を発揮したいと思います。また、学校での練習も頑張ります。

(三年 河原林 治)

全国大会に400丸に出場します。あの全国大会の雰囲気になれないようにしたい。全国の雰囲気にもみこまれそうになつても自分の走りをしたい。大会後は次の目標に向かって走り続けたい。

(四年 四方 善晶)

今年で四回目の全国大会なので、最後の良い思い出なつたらそれで満足です。

(四年 田中 賢慈)

今年の全国大会では、暑さに負けたりせず、全力で試合をします。優勝は無理かもしれないけれど、上位入賞できるようにペアと力を合わせて頑張ります。

(三年 高橋 綾香)

生徒指導部より

生徒指導部長 谷口 藤雄

(三年 高橋 綾香)

一学期のはじめに、生徒指導部として、全校生徒のみなさんに次のようなあいさつとお願いをいたしました。今年の重点として考えていることです。

三和分校は、いろいろな思いや願い、困難を持った生徒が通学しています。お互いに相手の気持ちを考えて、人の迷惑や嫌がることをしないようにして下さい。また、自分の命(いのち)、心や体を大切にしましょう。自分の命を大切にすること、他人の命、気持ち、身体が大切にできます。「私」も「人」も大切な存在です。

暴力や暴言は許しません。悪いことは悪いです。どんな理由があってもこれは厳しく指導します。暴力や暴言で学校に来られなくなった人もいます。ちよつとしたことが人を大きく傷つけることを肝に銘じてください。

先生に言われたり、注意されなくても、自分で考えて行動できる人になってください。みなさんは、自覚ある人間です。

高校とはどんなところでしょつか小学校や中学校のように義務教育ではありません。高校は大人に

なる準備、社会人として生きていくための「力」を身につけるところです。大人になる、社会人になる力とは何でしょうか。それは、たくさんありますが、少なくとも高校では次の力をつけて下さい。

第一は、その時、その場所に応じた「あいさつ」ができることです。特に、五つのあいさつ「おはようございます」「こんにちわ」「失礼します」「さようなら」「ありがとう」がしっかりと口に出せるようにしましょう。

第二は、「けじめ」や「我慢する」辛抱する「力」を身につけることです。

第三は、社会や学校、集団のルールを守ることです。学校だけではなく、社会や家庭、いろいろな集団にはそれぞれのルールやマナーをしつかり守ることが社会人の第一歩となります。

高校は社会人への準備をする時期です。また、社会人に相応しい力を学びます。学校では、生徒諸君が社会人として必要な学力やその他の力を身につけるよう、できる限りの支援と指導を行っています。こうした力は学校だけではなく、家庭と地域、学校が一体となつた時大きな力を発揮する事ができると思います。ご協力よろしくお



進路指導部より

進路部長 宇野 佳代

願います。

「三和分校卒業後、自分の子どもはどんな社会人になるのだろうか」。面談等の機会に保護者からこのような相談がもちかけられることもあります。すでに社会人として、働くことの大変さや厳しさを身を持って知る親として、これから子どもたちが働いていかなければならないことに対して不安や心配の種が尽きないのは当然のことだと思えます。

四月から四年生担任及び進路指導部長として、企業の採用担当者や新入社員教育担当者から直接話を聞く機会がありました。そこで、PTAだよりの紙面を借りて、企業が求める社会人像、早期離職をする若者の言い分、今家庭で話し合つてほしいことを紹介したいと思います。

企業は「明るく元気で、忍耐力のある、あいさつができる、気配りのできる、素直な」人材を求めています。これらの条件に見合うよう、学生たちは一生懸命に就職活動に取り組み、めでたく内定をいただき入社します。しかし、「頑張っているのに認めてもらえない、いつも怒られる、なぜこんな仕事

をしなければいけないのか、やりたい仕事をさせてもらえない」といった不満を募らせて早期離職をする社会人一年生は多いようです。

(高卒の社会人の約半数が三年以内に離職するというデータもありません。)早期離職する理由は様々ですが、「社会人になる覚悟ができていないかどうか」が大きな分かれ道です。社会人になるということは言い換えれば「自由気ままな世界から、勝手が許されない世界に入ること」です。怒られて当たり前、指示されたことをできて当たり前、つらい作業でもそれを経験してコツコツと積み上げなければなりません。人生の先輩である保護者様から、子どもたちに向けて自らの経験を語り、「社会で働く事は厳しい事なのだ。学生から社会人になる時には、自分を変える覚悟をしなければならぬ。」ということを折に触れ伝えていきたいと思えます。

三和分校でも生徒達に「あいさつをすること」「つらくても、やるべきことをきちんとすること」を繰り返し指導してまいります。保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひします。



教務部より

教務部長 安枝 典子

『学校』とは何でしょう。高等学校とはどんなところでしょうか。みなさんは考えてみたことがありませんか。先ず『学校とは共に学ぶところ』ではないでしょうか。『学ぶ』内容にはいろいろあると思います。毎日の学習はもちろん、朝の挨拶も、掃除も友達とのおしゃべりもすべてが学習であり学びであると 생각합니다。1学期を終えようとしています。1学期を振り返りながら送りましたか？そこで、今のみなさんに『がまんをする』ということをお願いしたいと思います。『しんどい』『何でせないかんの』『だるい』『めんどうくさい』『おもしろくない』『いや』『生徒のみなさんからよく聞く言葉です。できないこと、知らないことを学び体得していくはずの学校で残念に思う言葉の数々です。』『すぐカーツとなる』『相手を傷つける言葉をすぐ口に出す』『すぐ休む』『ルールが守れない』等の行動も目立ちます。これを書いている私にもあてはまることはあります。社会に出たとき、今のままでうまくやっつていけないことに早くに気がついてほしいと思います。今一度自分を振り返り反省し、お互い自分を少しでも成長させていきたい

です。将来の夢に一步でも近づかため、諦めずにコツコツと積み上げていってほしいと思います。みなさんは自分の希望や将来の進路の実現に向けてこの学校を希望し、入学してきていると思います。高校生活の四年間において、自らの課題を克服して目標の進路を実現することは、なかなか容易なことではありません。少しずつでも前進していくために、家庭と学校が連携をとり、生徒一人ひとりが『この学校に来てよかった』『頑張つてよかった』と振り返られるように、共に頑張りたいと思います。

保護者の方々のご協力も是非お願いしたいと思います。

毎日の授業を大切にすること、課題や提出物はきちんと提出すること、できるだけ欠席をしないこと。みなさんが選んだ『三和分校』でしっかりと『学び』しましょう。

新転任の先生方より

保健体育 田所 律子

本年度、福知山高校本校より移動になりました田所律子です。教科は保健体育です。分掌は、保健部長・四年生の副担・教務部・生徒指導部・PTAの庶務の方でも



お世話になっていきます。本校には九年いりましたが、分校のことはほとんど理解していません。た有様で、毎日新鮮な感覚で仕事をさせていたいています。

高校生の持つ力を信じ、任せられる所は任せ、それでもまだまだ身につけなければならぬ力は身につけさせ、持てる力を更に伸ばしていけるよう、生徒達と一緒に頑張つていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

よろしくお願ひします

農業科 今井 達也

四月から、三和分校で二学年担任・農業クラブ顧問としてお世話になっていきます。昨年度まで峰山高等学校弥栄分校に十二年間勤務しておりました。前任校も分校であつたため、生徒数においてもあまり大きな差はなく、分校ならではの共通点多々あり、ホツとする反面、三和分校独自の取組などの面で戸惑うことも多々あります。周りの先生方に支えていただき毎日を送っています。仲良く、楽しく、実りある高校生活を目指して生徒たちのサポートをしていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひします。

森 善彦

今年度、農芸高校から転任して

きました。現在一年生の担任をしています。前任校も田舎にある学校で大自然に囲まれており、それほど生徒数は多くない方でしたが、ここ三和はもつと少なく、どちらかといえば人懐っこい生徒が多くいるように感じます。教科は農業科を担当していますが、少人数のため、じっくり生徒たちに向き合うことができ、そのあたりが三和のメリットだと思います。生徒たちは農業実習で作業することで、働く力をつけてくれればと願っています。私自身も、農業で教える(忍耐力・精神力・挨拶)が出来る、等()ことができるように心がけていきます。どうぞよろしくお願ひします。

「はじめまして」

広野 加菜

四月から三和分校で養護教諭としてお世話になることになりました。昨年度までは三年間、私立大阪商業大学付属幼稚園で勤務しておりました。

周りの先生方に支えられながら日々勉強の毎日ですが、一歩ずつ着実に歩いていきたいと思ひます。

生徒自身が規則正しい生活習慣を確立し、心身共に健康な状況で学校生活が送れるよう生徒と共に精一杯頑張つていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。